

理科教育，特に地学教育の充実を！

2011年3月11日に発生した東日本大震災では多くの尊い命が犠牲になり，広い地域で生活環境が破壊されました．さらに，福島第1原子力発電所の事故による放射能汚染は広い地域におよび，町ごと避難せざるを得ない事態に陥っています．災害を引き起こす自然現象を正しく理解することの重要性があらためて確認されました．

近年，地震災害だけでなく，洪水，土砂災害，地すべりなどの災害が全国各地で相次いでおり，地域住民が災害に関する基礎的な知識・素養をもつことがこれまでになく重要となっています．また，緊急の対策等を迫られる地方自治体や国の職員も，自然科学に対する高度な知識と見識を持つことが重要になります．

このような中で地学教育は，「大地のつくり」や「地球の歴史」をあつかい，環境問題や災害に最も密接に関連する内容を含んでいるにも関わらず，学校現場では地学教育が十分におこなわれていない現状があります．高等学校においては，地学履修率が低くなっていて，さらに地学を専門とする教員も少なく，地学を選択することさえできない学校が多く存在します．また，小学校・中学校においては，高校や大学で地学を学んでこなかった教員が多く，地学分野を苦手とする理科教員が多くいます．

私たちは，このような状況を打開し，多くの国民が災害から身を守れるような知識を持つようにするために，政府をはじめとする関係機関に以下のことを強く要請します．

- (1) 地学を専門とする教員を増やすとともに，すべての高等学校において地学が履修できるようにする．
- (2) 小・中学校における理科教育課程に地学分野の内容を充実させ，環境問題や災害に対応できる人を育てる．そして，実験・実習を含め，きちんと理科が指導できるよう，理科を専攻した理科専任教員をすべての小学校に配属する．
- (3) 魅力的な理科授業・地学授業を進めるため，各地の博物館等の教育活動を支援し，学校教育との連携を推進する．

2012年8月18日

第66回地学団体研究会総会（長野）